

土佐清水市清水港における観光拠点施設の設計

高知工科大学 システム工学群 建築・都市デザイン専攻

1230005 浅野 麻衣

指導教員 重山 陽一郎

1. 背景

(1) 魅力の分散

高知県南西部に位置する土佐清水市は、昨年歴史文化的に重要な価値がある地形地質遺産「ジオパーク」として、ユネスコに認定された。しかし、貴重な地形をもつ地区は竜串と足摺岬に偏っており、水族館やキャンプ場等、主要な観光施設も2つの地区に集中している。

中心市街地には市の特産品である清水サバや宗田節が味わえる飲食店が複数点在しており、土佐清水市観光マスタープランでは「食」の提供による中心市街地の活性化を目標としている。しかし拠点となる観光スポットがなく、国道321号線から市に訪れた観光客は、中心市街地を素通りして竜串や足摺岬の観光施設へ向かっているのが現状である。

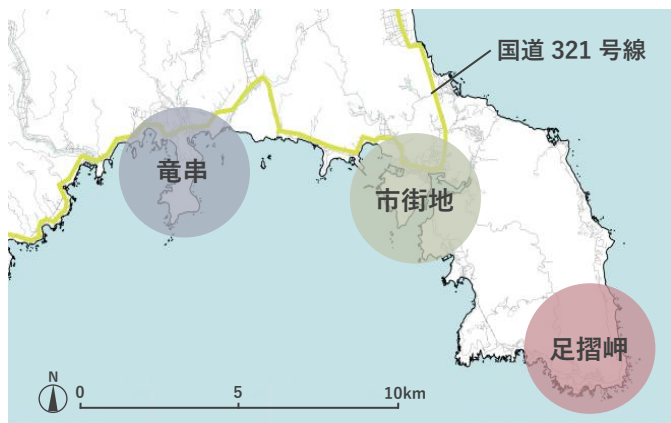


図1：観光地と中心市街地の位置関係
(国土地理院地図に筆者加筆)

2. 目的

土佐清水市の「食」と清水港の景観の魅力を活かした、歩いて楽しめる観光拠点施設を提案する。魅力を集約させることで、観光客や中心市街地に多く住む市民の利用促進、賑わいや価値の向上を図る。

3. 対象敷地

高知県土佐清水市市街地に位置する、国道321号線沿いの清水港を囲む敷地を対象とする。北側の敷地にはスーパーや古いアパート、パチンコ屋等が建ち並んでいる。鹿島は以前離島であったが、埋め立て工事で地続きになり鹿島公園が作られた。島には4つの神社が鎮座しており、海岸線は徒歩5分程で一周できる。コの字型の海岸線は、歩道としての舗装がされておらず、コンクリートの護岸が続いている。

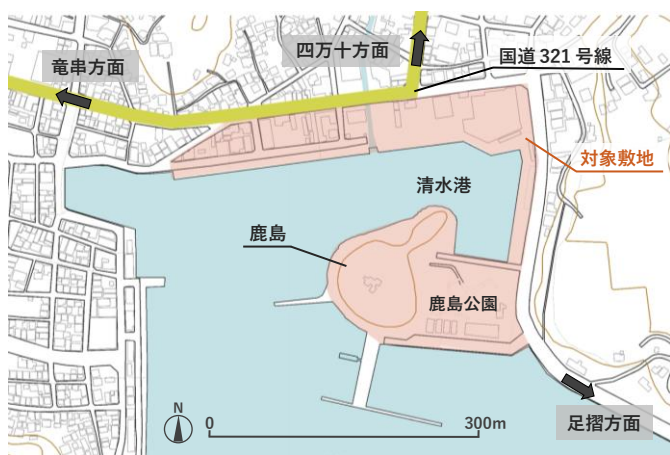


図2：対象敷地地図
(国土地理院地図に筆者加筆)

(2) 「港町」の価値

中心市街地に位置する清水港は、コの字型の岸壁を持ち、湾内に浮かぶようにある鹿島を様々な角度から眺望できる。海岸線には多くの漁船が停泊し、湾内では鹿島神社大祭やあしずり祭り等の伝統祭が開催される。しかし港を取り囲む背景には古いアパートやパチンコ屋等が建ち並び、港の風景と調和しておらず、眺望を十分に楽しめないのが現状である。



図3：現在の清水港の様子



図4：全体配置図

4. 設計方針

歩きたくなる空間を創出する

(1) 観光資源の集約

市場、土産店、観光案内所を歩いて回れる範囲に集約する。「食」を楽しむ場所を新設する。

(2) プロムナードの整備

観光拠点を繋ぎ、賑わいを与える軸を形成する。歩きながら、心地よく対岸との視線の交換ができる海岸線にする。

(3) 港の風景を眺める鹿島公園の再整備

豊かな自然を体感しつつ、港町の風景を眺める場所を提案する。

5. 設計

a) 建物の配置

国道321号線からの海への見通しを改善する。現時点では、国道321号線の突き当りに建物があり海やその奥に見える鹿島が見えない。(図5) よって、建物を撤去し、新設する観光拠点施設を分割して配置する。建物と建物の間にスリットや広場を設けることで、海への視線を通す。(図6) そうすることで、水際に対する意識を高める。



図5：改善前



図6：改善後

b) 市場

現在、清水港の市場は対象敷地より 1.3 km程離れて位置している。市場という魅力的な観光資源を気軽に歩いて楽しめるよう、移転する。出荷のための大型トラック等の出入りを考慮し、遊歩道の先端に配置する。

市場内では仲買人が競り落とした新鮮な魚介類の店頭販売を行い、活気あふれる賑やかな空間として地域内外の集客を目指す。競り場や漁協事務所は、市場の西側に別棟で配置する。



図7：市場の外観

c)土産・産直店

野菜や果物、地元加工品、工芸品、またお土産等の販売エリアとする。軒下での地域の出店や半屋外ステージでのイベント開催を行い、集客を図る。



図8：土産・産直店の外観

d)情報交流館



図9：情報交流館の内観

観光拠点として市の情報を発信する情報交流館を新設し、観光案内所、土佐清水市の紹介ギャラリー

(ジオパーク、歴史等)として利用する。土佐清水市全体の魅力をアピールすることで、竜串や足摺岬の観光地との連携を図る。

e)プロムナード

来訪者を観光拠点から水辺まで無理なく誘い込み、心地よく歩けるようにするため、温かみのあるボードウォークを採用する。木材は水に濡れても滑りにくく潮による腐食にも強いという物理的特性をもち、時間の経過とともに様々に表情を変える。落ち着いた雰囲気では人々に寄り添い続ける事を期待する。

また段差を設ける事で眺望の変化に加え、水辺への接近の度合いを視覚的に意識できるようにした。係船柱は、漁船の停泊のための利用と水辺への接近の注意喚起を兼ね備えている。

照明は水際に加え階段の蹴込板に設置し、夜間でも安全に歩行できるようにする。



図10：プロムナードの様子



図11：対岸から鹿島を見る

f)鹿島公園

現存の公園と駐車場を再整備する。公園は高さ1.5mの起伏を緩やかにすることで、囲まれた港と対岸の様子を眺望できる。公衆トイレに加えカフェを新

設する。三角屋根が特徴の折板屋根を採用し、人々の目に留まるようなデザインとする。入口を建物両側に設置し、駐車場側からもプロムナード側からもアクセス可能とする。現在、鹿島公園は長旅の休憩所として利用されており、再整備により滞在時間の増加を目指す。



図 12：カフェの外観



図 13：鹿島公園からの眺望

g) 鹿島の護岸

鳥居を抜けるとのどかな漁港の風景から一変して薄暗い森に囲まれた参道が鹿島神社へと続いている。本設計では、海岸沿いの参道の護岸の一部を、漁船ドック跡から石積み傾斜護岸に再整備する。緩やかな傾斜にすることで、安全性と親水性を高める。



図 14：現在の護岸



図 15：石積み傾斜護岸

h) 植栽・植樹

植栽・植樹は耐潮性があるシラカシ、ヒイラギ、モチノキ、イヌツゲ、シマトネリコ、ソテツ、カナリーヤシ等を配置する。またヤブツバキやアシズリノギク等土佐清水市内で自生するものを配置し、地域性を高めた風景とする。

参考文献

- 1) 横内憲久・横内研究室(1988)『ウォーターフロント開発の手法』, 鹿島出版会
- 2) 土佐清水市 HP <https://www.city.tosashimizu.kochi.jp/>



図 16：全体パース